

2022年度春学期 統計学 第10回
分布の推測とは —
標本調査, 度数分布と確率分布

浅野 晃
関西大学総合情報学部



1

「統計学」の後半は
統計的推測💡

2

「統計的推測」とは

ここまでは

データを度数分布で整理する
度数分布を要約する(平均・分散)

記述統計学

調べたいデータ全体を調べられるか？

3

「統計的推測」とは

調べたいデータ全体を調べられるか？

日本男性全員の身長を調べられるか？

データ全体の数値をすべて調べるのは、
費用や時間がかかる

最近はそうでもないのでは…(ぼそ)

その通りで、「ビッグデータ」という言葉も聞かれ、「機械学習」もさかんになりました。

4

「統計的推測」とは

調べたいデータ全体を調べられるか？

日本男性全員の身長を調べられるか？

データを集める手間は劇的に減ったけれど

測定作業の手間や費用は変わらない

それに、調べると、壊れてしまうものもある

料理をすべて味見してしまったら、食べるものがなくなってしまう

「統計的推測」とは

調べたいデータ全体を調べられるか？

日本男性全員の身長を調べられるか？

データの一部を調べて度数分布を推測する

いや、せめて平均や分散を推測する

統計的推測

統計的推測の基本は
「くじびき」🎯

無作為抽出

統計的推測は、

集団のデータ全体を調べていないのに、
集団全体のように調べようとする

結果が間違っている可能性がある

バレーボール🏐やバスケットボール🏀の選手ばかり選んでしまったら
「日本人はすごく背が高い？」

無作為抽出

わざわざ背の高い人ばかり選ぶことはない

高低まんべんなく選べば、
その平均は集団の平均とだいたい同じ

それはそうだけど

集団にどんな人👤がいるか何も知らないのに
選ばれた人が、集団のなかで背が高いか低いかなどわからない

無作為抽出

集団にどんな人がいるか何も知らないのに
選ばれた人が、集団のなかで背が高いか低いかなどわからない

「まんべんなく選ぶ」のは無理

なので

公平なくじ引きで選ぶ

無作為抽出

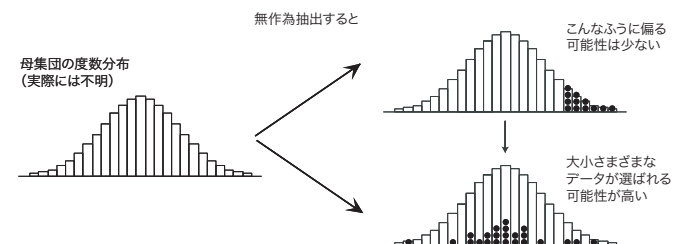
集団からくじ引きで選ぶと

偶然、🏀🏈選手のような人ばかりを
選んでしまって、おかしな結果になる可能性が
ないわけではないけれど、

そうなる確率は小さい その確率も計算できる。

無作為抽出

集団からくじ引きで選ぶと



★たくさんの人を抽出すると、偏らないか？

無作為抽出なら、そう期待できる。(今日の後半)

無作為抽出でなければ、必ずしもそうではない。
(ツイッターのTLは「鏡に映った自分の意見」)

無作為抽出

データ全体から、いくつかの数値を
公平なくじびきで選ぶ

[無作為標本抽出]という

調べたい(が全部を調べるのは無理な)集団[母集団]

調べられる程度のデータ[標本(サンプル)]

標本「サイズ」

「母集団」や「標本」という言葉は、
「データ」と同様、数値の集まりをさす
(1つ1つの数値ではない)

母集団も標本も、その中に含まれる
数値の個数を大きさ(サイズ)という
([標本サイズ]とはいうが、標本数とはいわない)

家族(family)という言葉に似ている

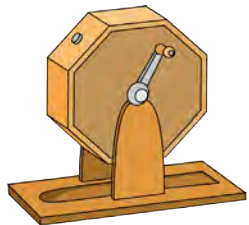
度数分布と確率分布

度数分布と確率分布

標本を無作為抽出するとき
ある数値が出てくる確率がどのくらいになるか

さっきの
「偏った数値ばかり選んでしまう」確率を求めるのにも必要

「公平なくじびき」と当たり確率



この中に入っている当たりくじの割合が
20%とする

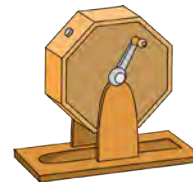
https://illpop.com/png_season/dec01_a07.htm

くじを1回ひいて、当たる確率は？ 20% 本当？

2022年度春学期 統計学 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 17 | 39

17

「公平なくじびき」と当たり確率



当たりくじの割合が20%なら、
当たる確率も20%

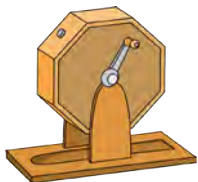
これが本当であるためには、

- ・どのくじも同じ確率で選ばれる
- ・ある回のくじびきの結果が、他の回に影響しない(独立)

2022年度春学期 統計学 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 18 | 39

18

「公平なくじびき」と当たり確率



どのくじも同じ確率で選ばれるのなら、

くじの総数のうち20%が当たり
→当たりが出る確率は20%

(ラプラスの確率の定義)

2022年度春学期 統計学 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 19 | 39

19

度数分布で考えると

母集団の度数分布

階級値	相対度数
...	
162.5	15%
167.5	20%
172.5	20%
177.5	10%
...	

無作為抽出

階級値172.5の人が
選ばれる確率は

20%

2022年度春学期 統計学 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 20 | 39

20

度数分布で考えると

どの階級についても同じだから

母集団の度数分布

階級値	相対度数
-----	------

162.5	15%
-------	-----

167.5	20%
-------	-----

172.5	20%
-------	-----

177.5	10%
-------	-----

無作為抽出

標本の[確率分布]

階級値	選ばれる確率
-----	--------

162.5	15%
-------	-----

167.5	20%
-------	-----

172.5	20%
-------	-----

177.5	10%
-------	-----

確率分布と確率変数

つまり 母集団の度数分布 (母集団分布) = 標本の確率分布

階級値	選ばれる確率
-----	--------

162.5	15%
-------	-----

167.5	20%
-------	-----

172.5	20%
-------	-----

177.5	10%
-------	-----

標本は、
値がいくらになるかは決まっていない
しかし確率分布が決まっている

こういう数を[確率変数]という
(中国語では隨機変数)

「標本は、確率変数である」

何が知りたいのか

母集団の度数分布が知りたい

標本の確率分布を推定すればよい

標本の確率分布, 推定できる?

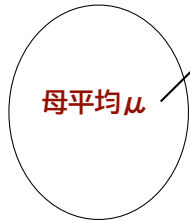
くじを1本だけひいても, 当たり確率はわからない

どうする?

標本平均と母平均

母平均の推定

母集団
(日本男性全体)



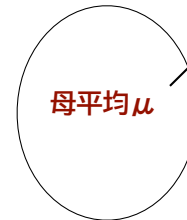
標本として数値をいくつか取り出して、
それらの平均 [標本平均]

標本平均は母平均に近い値になるか？

母平均が知りたい が、日本男性全員は調べられない

母平均の推定

母集団
(日本男性全体)



[標本平均]

標本平均は母平均に近い値になるか？

もし偏った標本が得られていたら、
標本平均は母平均と大きく食い違うことに

母平均の推定

母集団



サイズnの標本1セット

X1 X2 ... Xn

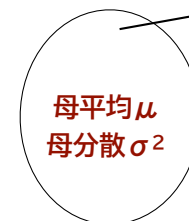
標本平均

\bar{x}

仮に、何度も標本を抽出したとしたら？

X1の期待値と分散は

母集団



サイズnの標本1セット

X1 X2 ... Xn

標本平均

\bar{x}

X1 X2 ... Xn

\bar{x}

X1 X2 ... Xn

\bar{x}

⋮

⋮

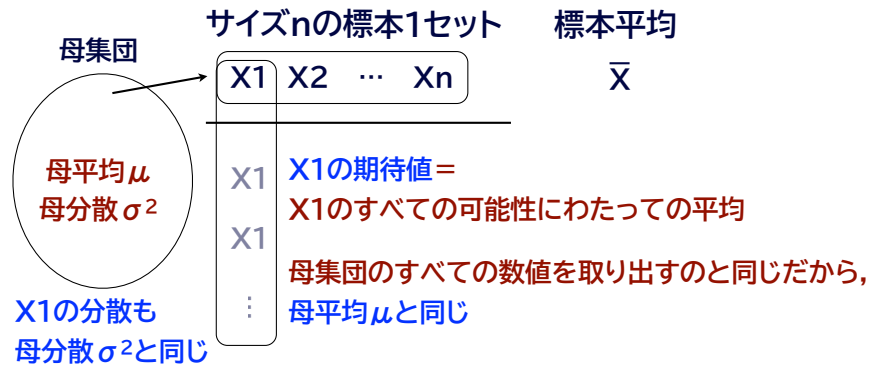
[期待値] μ
分散 σ^2

X1のさまざまな可能性
その平均を、

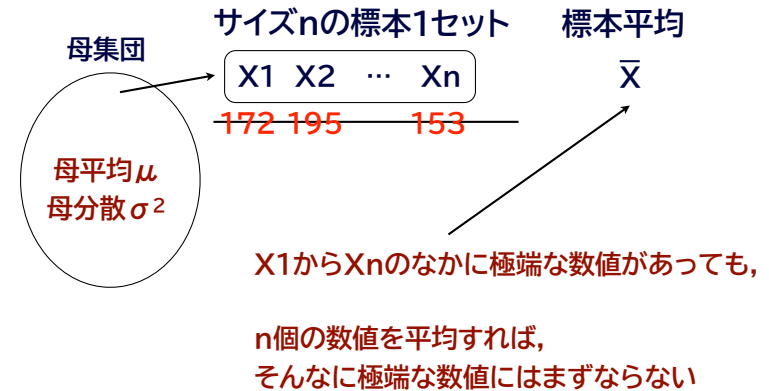
期待値？

期待値とは？

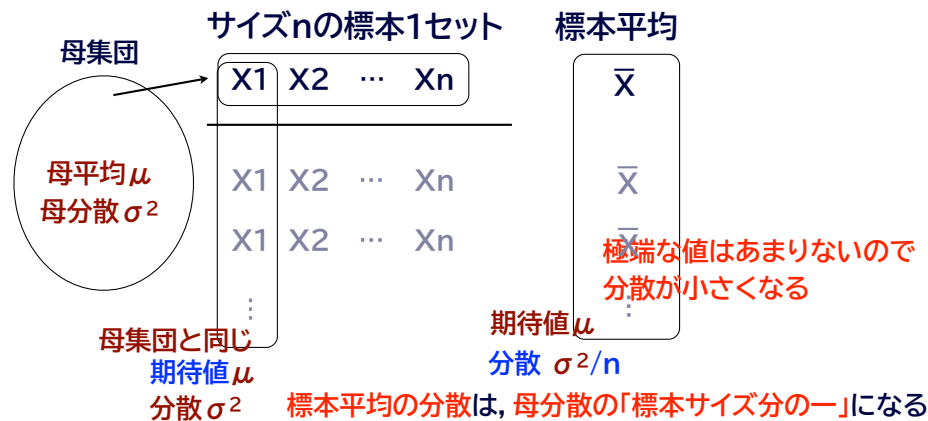
期待値は平均の一種で「すべての可能性にわたっての平均」



標本平均の期待値と分散は



標本平均の期待値と分散は



母平均の推定

母平均が μ のとき、標本平均の期待値が μ
母分散が σ^2 のとき、標本平均の分散が σ^2/n

仮に、何度も標本を抽出して、
何度も標本平均を計算したとすると

分散が小さくなっているので、
「たいてい、ほぼ」母平均に近い値になる



母平均の推定

母平均が μ のとき、標本平均の期待値が μ
母分散が σ^2 のとき、標本平均の分散が σ^2/n

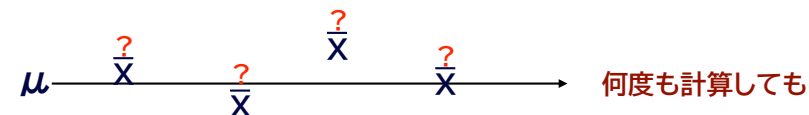
仮に、何度も標本を抽出して、
何度も標本平均を計算したとすると

分散が小さくなっているので、
「たいてい、ほぼ」母平均に近い値になる

いま1回だけ計算した標本平均も、
たいてい、ほぼ母平均に近い値だろう

母平均の推定

いま1回だけ計算した標本平均も、
「たいてい、ほぼ」母平均に近い値だろう



いつ計算しても、たいていそれほどかわらない

いま1回だけ計算した標本平均は
上のどれにあたるかはわからないが、
いずれにせよ、たいていはあまりかわらない

理想的な無作為抽出とは

ところで

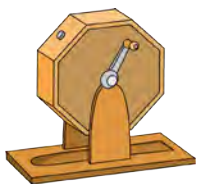
母分散が σ^2 のとき、標本平均の分散が σ^2/n

標本平均の分散に関係しているのは
標本の大きさであって、母集団の大きさは関係ない

推測の確かさに影響するのは
標本の大きさであって、
標本の大きさの、母集団の大きさに対する割合 ではない

標本の大きさとは

「10人からなる標本」の意味は、
1,000人からなる母集団でも
100,000人からなる母集団でも同じ 🤔…



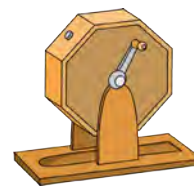
理想的な無作為抽出では、復元抽出を行う
標本サイズは、
「取り出された数値の個数」というよりも
「同一の母集団から数値ひとつひとつを取り出す回数」
→ 母集団の大きさに対する割合は無関係

復元抽出と非復元抽出

理想的な無作為抽出は、「公平なくじびき」

- どのくじも同じ確率で選ばれる
- ある回のくじびきの結果が、他の回に影響しない(独立)

こうであるためには、



出たくじをすぐに箱に戻す
[復元抽出]

実際にはあまりやらない…

母平均の推定

いま1回だけ計算した標本平均も、
「たいてい、ほぼ」母平均に近い値だろう

どのくらい近い？

どのくらいの確率で？
はずれる確率は？

このあたりは次回。